

夢の実現へリニア中央新幹線② 岐阜県の取り組み④

「リニア中央新幹線」計画についてシリーズでお伝えしています。

今月は、岐阜県の取り組みとして、リニア中央新幹線活用戦略研究会における県内のリニア駅の位置などについての検討状況をお知らせします。

リニア駅の位置に関する検討

県では、平成39年のリニア中央新幹線開業に向け、その効果を広く県内の地域づくりに活かすため、昨年9月に県内全市町村や経済界などで組織する「リニア中央新幹線活用戦略研究会」(以下、研究会)を設置し、産業振興、観光振興・まちづくり、基盤整備の3つの部会において、リニアを活用した具体的な施策の検討を進めています。

基盤整備部会では、リニア駅を有効かつ広域的に活用するための鉄道・道路アクセス整備や駅機能のあり方の検討および、今後、リニア中央新幹線を活用していくための戦略づくりを検討していくうえで、リニア駅の位置は重要であることから、駅の位置に関する検討が行われてきました。リニア駅の位置の検討については、リニア駅と在来線との接続パターンが3つ示され、委員による意見交換が行われました。

1 リニア駅と在来線との接続パターン

① 在来線駅と並行してリニア駅を設置(例：豊橋駅)

② 在来線駅と交差する形でリニア駅を設置(例：新青森駅)

③ リニア駅を在来線駅に近接して設置し、連絡通路等で接続(例：三河安城駅)

④ リニア駅を在来線駅と離れた場所に設置(例：新富士駅)

これまでに3回にわたり基盤整備部会において議論、検討がなされ、3月23日の会議で次のとおり整理されました。

○ リニア駅の位置を本県の「東の玄関口」として、有効的かつ広域的に活用していくためには、**道路ネットワークとの連携とともに、在来線との連携が重要である。**

○ リニア駅と在来線との接続方法について、リニア駅利用者の利便性を考慮すると、**在来線既存駅(美乃坂本駅)に併設するか、若しくは、近接する場所に設置すべきである。**

※ 在来線駅に近接する場合、できる限り両駅間の距離(連絡通路の長さ)を短くする必要がある。

また、この議論の際には「美乃坂本駅周辺には、住宅密集地や学校などがあり、また、文化財など地域として保全していくべきものも多いこ

リニア県内駅候補地の概要

「計画段階環境配慮書(JR東海より)」

技術的可能性	J R 中央線と並行する形で、約20mの高さの地上駅で計画可能
利便性	(道路) 中央自動車道とのアクセスが容易 (鉄道) J R 中央線の既存駅に近接
環境への影響	できる限り高架橋の高さを低くするなど、環境への配慮が必要
用地	周辺は農地が主体



出典：リニア中央新幹線活用戦略研究会基盤整備部会(第3回)資料

とから、それら地元への影響を極力避けたいうえで、アクセス道路や駅前広場を機能的に配置できる位置が望ましいと考える。」と当局として意見を述べました。

4月11日(水)には、リニア中央新幹線岐阜県期成同盟会(会長古田肇岐阜県知事)平成24年度定期総会が多治見市で開催され、上記事項が決議項目に盛り込まれ採択されました。そして、4月18日(水)に同盟会として、県知事をはじめ東濃五市の首長らで、JR東海に対して申し入れを行いました。

問 リニア推進課(8内線324)

リニア駅は、在来線との乗継利便性を考慮し、在来線既存駅(美乃坂本駅)に併設、若しくは、**できる限り近接して設置すべき。**

「リニア中央新幹線岐阜県期成同盟会」を通じ、JR東海に申し入れを行う。

※ 研究会で新たに追加された事項